

日本アジア言語文化専攻

Japanese and Asian Languages and Cultures



当専攻には、「日本語」「日本文化」「アジア言語文化」の3領域があります。

「日本語」では、近現代の日本語を中心的な対象として、日本語研究を行います。また、日本語と外国語との関わりも重視しています。

「日本文化」では、日本の伝統文化や近現代文化・社会を対象とした研究を行います。

「アジア言語文化」では、中央ユーラシアから東南アジア大陸部までの言語、文献及びそれらの文化的背景について研究します。

The Japanese and Asian Languages and Cultures Program consists of Japanese Language, Japanese Culture, and Asian Languages and Culture units. In the Japanese Language unit, students conduct research on the Japanese language focusing mainly on modern and contemporary Japanese. The relationships between Japanese and foreign languages are also emphasized.

In the Japanese Culture unit, students conduct research on traditional Japanese culture, and culture and society of modern and contemporary Japan.

In the Asian Languages and Culture unit, students engage in research on the languages, literatures and cultures that span from Central Eurasia to the southeastern Asian continent.

授業担当専任 スタッフ Academic Staff Profiles

日本語 Japanese Language

福田 嘉一郎 (ふくだ よしいちろう) Yoshiichiro FUKUDA

●教授/Professor

日本語の文法の研究を行っている。特に近代語という観点に基づき、中世から現代に至る日本語を主な研究の対象としている。

Studies in Japanese grammar (syntax, morphology)

岩男 考哲 (いわお たかのり) Takanori IWAO

●准教授/Associate Professor

現代日本語の文法を主に研究している。特に、話し言葉に見られる形式の意味、そしてその意味の多様性(とその多様な意味の間のつながり)に関心がある。最近では、会話において話題を導入する形式や引用表現を主な研究対象としている。

Studies in modern Japanese grammar (syntax, semantics)

中井 幸比古 (なかい ゆきひこ) Yukihiro NAKAI

●教授/Professor

日本語の音声・音韻に関する研究、また、方言・社会言語学研究を行っている。日本語学習者の音声・音韻にも興味を持つ。

Japanese Linguistics (Phonetics, Phonology, Dialectology, Sociolinguistics)



日本文化 Japanese Culture

馬淵 美帆(まぶち みほ)Miho MABUCHI

●教授/Professor

日本絵画史、特に中世から近世のそれを主な対象として研究している。

History of Japanese Paintings (medieval and early modern times)

山本 昭宏(やまもと あきひろ)Akihiro YAMAMOTO

●准教授/Associate Professor

メディア文化史、歴史社会学研究。核エネルギーに関する日本人の認識を、新聞・雑誌・漫画・映画・小説などの様々なメディアに注目して研究している。それに基づいて、日本の現代文化との比較研究も行っている。

History of media culture. Historical Sociology

アジア言語文化 Asian Languages and Cultures

林 範彦(はやし のりひこ)Norihiko HAYASHI

●教授/Professor

言語学専攻。専門領域は東アジア・東南アジア大陸部の諸言語である。中国雲南省で話されるチベット・ビルマ系言語であるチノ語の記述言語学的研究を中心に、東南アジア大陸部北部地域(タイ文化圏)の諸言語の地域言語学的研究を行っている。フィールドワークを手法とする記述言語学・言語類型論・歴史言語学(比較言語学・言語接触論)からこれらの諸言語にアプローチしている。また記述言語学と言語理論(生成文法・認知言語学等)の有機的な連携にも強い関心がある。

Tibeto-Burman Linguistics and Southeast Asian Languages



最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- ・アニメ・マンガにおける役割語の諸相
- ・中国人日本語学習者における促音の習得 —発音実態から見て—
- ・中国人日本語学習者における日本語複合名詞アクセントの習得研究 —アクセント単位を中心に—
- ・中国の相声と日本の漫才の対照研究 —おかしみを引き出す方法を中心に—
- ・付帯状況を表す接続助詞の先行動詞について「ながら」と「つつ」を中心に
- ・中国語の字幕に見る日本語授受表現翻訳の問題点
- ・複合動詞「V出す」と中国語「V出」の対照研究
- ・日中戦争期における都市モダン文化の大衆的領有と差異化のメカニズム
——ジャズの浄化とブルースの排除を巡る楽壇の言説——
- ・タイ語の重複法と反復法について
- ・モンゴル語ホルチン方言の音韻に関する一考察

院生紹介

Message from a Student

-なぜ修士課程に進学しようと思いましたか。

子供の時から日本の文化や歴史に関心があり、日本語に興味を持っていました。その後、ロシアの大学に進学し、東洋学を専門に選びました。4年間、日本についてたくさん学び、日本語に対する興味ももっと深くなりました。将来、日本語の先生になる夢もでき、もっと詳しく勉強しなければならぬと思いました。そこで大学院に進学し、日本語学を研究したいと思い進学を決めました。

-神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由を教えてください。

学部3年生の時、神戸市外国語大学のJLP(日本語プログラム)生として初めて来日しました。来日中に他国からの留学生や日本人学生の中でたくさん友達できました。大学の授業はとても面白くて、日本語だけでなく日本文化の知識もかなり上がりました。また弓道部の部員にもなり、とても楽しい学生生活を送ることができました。先生方やす

タッフの皆さんはとても親切で、分からないことがあった時はいつも丁寧に教えてくださいました。留学期間は半年と短かったですが、とても良い経験になりました。この経験があったので、大学を卒業した後は神戸市外国語大学大学院に入学しようと決めました。

-どのような学生生活を送っていますか？

私は1年生の時にできるだけ多くの授業を取りました。そのおかげで、2年生でもまだ取らなければならない授業が残りましたが、自分がやっている研究に集中できる時間を作ることができました。普段から本や他の書類を借りて自宅で勉強するのが好きですが、この大学の図書館の勉強に集中できる雰囲気が入り、秋学期の空いている時間は図書館で過ごすようにしました。それ以外にもアルバイトをしているので、ずいぶん忙しい学生生活になりますが、どこでも日本語しか使えない環境がとても勉強になります。



ミサノワ・アラ(2年)
MISANOVA Alla